

北上市と名古屋市で「知」の発信

文化講演会 専修大学からの「知」の発信



▲ 講演する日高理事長・学長＝10月26日、名古屋市「アイリス愛知」で

北上市 10月5日、北上市の日本現代詩歌文学館での文化講演会、日高理事長・学長と坂田隆石専修大学学長が講演、約20人の参加があった。日高理事長・学長は「学問と人生」をテーマに講演した。18歳人口の50%以上



▲ 坂田石巻専修大学学長

日高理事長・学長らが講演 学問と人生 産と学のすみわけ

日高理事長・学長

坂田石巻専修大学学長

21世紀ビジョン「社会知性の開発」を掲げる本学は、文化講演会「専修大学からの「知」の発信」を各地で開催している。10月には岩手県北上市と愛知県名古屋市で開催し、日高義博理事長・学長らが講演、両会場とも盛況だった。同講演会は2005年に宮崎市、06年に山形市と福島市、07年に熊本市と徳島市で開催しており、名古屋市で7回目の開催となった。

日高理事長・学長らが講演

が大学に入学する現在、大学の成り立ちを述べた後、学教育には質の保証、卒業課題を発見する「知力」を生むの質の保証が求められるようになってきた。本来、大学は真理の探究を軸としてきたが、こうした時代に大学教育はどうあるべきか。自身の経験を含め、学問と人生、社会と相互にかかわりあった学問体系と大

が大学に入学する現在、大学の成り立ちを述べた後、学教育には質の保証、卒業課題を発見する「知力」を生むの質の保証が求められるようになってきた。本来、大学は真理の探究を軸としてきたが、こうした時代に大学教育はどうあるべきか。自身の経験を含め、学問と人生、社会と相互にかかわりあった学問体系と大

裁判員制度と刑法理論

日高理事長・学長

インターネットが創り出す「時代」

新井教授

名古屋市のアイリス愛知で開かれた文化講演会、日高理事長・学長と新井範子経営学部教授が講演。一般市民のほかに愛知、三重、岐阜の校友会東海3県合同懇親会が開かれるため、専大関係者が多数詰め掛け、約140人が聴講した。日高理事長・学長のテーマは「裁判員制度と刑法理論」。来年5月にスタートする裁判員制度は、欧米に見られる陪審制度や参審制度とは異なる新しいシステム

「専修大学」ホームページ
http://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
(定価一部90円)
発行所
専修大学広報課
〒101-8425 東京都千代田区
東神田3-3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

特集「学生相談室・まずは『話す』ことから始めませんか?」……③
寄稿「科学掘削船「ちきゅう」で『地球の謎』を解明しよう」……④
佐藤暢経経営学部准教授……⑤
政策科学シンポジウム「岐路に立つ中国…日本はどう向き合うか」……⑥
鳳祭フォト・ホームカミングデー……⑧
石巻専修大学 創立20年記念事業を開催/共創研究センター設置へ……⑨
北海道短大 旭山動物園ツアー開催/キッズベースボールに協力……⑩

テレホンサービス

(お知らせ・緊急連絡)
0180-994-994
本紙へのご意見をお聞かせください
koho@acc.senshu-u.ac.jp

2008年度 専修大学
入学試験要項・願書が完成
7/15入試・願書配布会
11/29 仙台・新潟・大阪・広島・福岡
12/6 札幌・名古屋
問い合わせ先
入学センターインフォメーション
[神田] ☎03(3265)6677
[生田] ☎044(911)0794

い、特徴を述べた。「社会知性」は、初めて出会うことにも適切な対応ができる能力だ。大学は新たな視野で研究の「素」を作り、企業は応用研究を得意とする。相互連携のメリットは大きく、学生が得るものは無限にあるが、大学は企業の下請けになったり、癒着してはならない」と語った。

「カンボジアの若者たちの姿から国際協力に関心を持って」。経済学部生ら4年次生有志8人が、アルバイトなどで費用を積み立ててカンボジアの若者3人を日本に招き、特別講演会と伝統舞踊の上演会を自主企画し、本学で開催した。

来日したのは、日本の継承に励むメンバーを日NGO「国際人権ネットワーク」(緒方由美子代表)が支援するモンドルパイ村の孤児院「友情の家」に住むヨーク・ビスナー代表(28)、ヤン・シンリーさん(22)、セソン・ソバナラーさん(17)の男女3人。学生有志たちは06年

視察のスタディーツアーでカンボジアのアンコールワット遺跡群にあるモンドルパイ村を訪ねて以来、訪問を繰り返して、ビスナーさんと緒方さんと知り合った。地雷や交通事故などで親を亡くした孤児たちが支え合

してねん出。就職活動を行いなから、直前にはカンボジアを訪問し3人のビザとパスポート取得に奔走した。学生や市民など300人が詰め掛けた10月10日、生田キャンパスでの特別講演会は大盛況だった。学生有志の滝佳之さん(ネットワーク情報学部)制作によるビスナーさんたちが日本を訪れるまでの道のりをたどるビデオも放映された。

内戦が続いたカンボジアの現代史を飯沼健子経済学部准教授が解説し、

「彼らがいつも笑顔だったのがうれしい」と大畑旭世さん(国際経済学部)は、はればれとした表情だ。

学生有志には、4月からフイジーの語学学校に留学中の八木祐樹さん(同)もいる。斎藤哲平さん(経済学科)と星野智也さん(国際

せようと仲間たちと決意した」と打ち明けると、ビスナーさんは「日本訪問を機に『友情の家』を展覧させ、未来を切り開きたい」と力強く応えた。

その後、ビスナーさんら3人は「天女の舞」などアプサラダンス4曲を披露。優雅でしなやかな舞いに盛んな拍手が送られた。懇親会では3人を学

生たちが囲み、交流が続いた。今後は後輩たち

「今回のプロジェクトにどう受け継ぐかを考える」と学生たちの奮闘をたたえ、ともに宿題を出した。

「使う側」がどのように対応していくことが大切かを解説した。

▽主催 専修大学▽後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、専修大学校友会愛知支部・三重支部・岐阜支部、専修大学友友会愛知「名古屋」支部▽協力 中日新聞社

アルバイト代を積み立てて



▲ 前列中央のアプサラダンス姿のビスナーさんらを囲んでおそろいのTシャツを着た有志学生とプロジェクト関係者のみなさん

「今回のプロジェクトは『知る』ことから始まる国際協力」を念頭に置いた。カンボジア側

学生有志がカンボジアから若者招く 講演会と伝統舞踊上演に熱い声援

学生有志がカンボジアから若者招く



▲ ビスナーさん(左)とシンリーさん